伝承芸能やけんらんたる菊花祭

文化祭における各種ハイライト！

★稔りも豊かな秋、菊香おる「文化の日」をいろどる恒例の「文化祭」が★
★公民館を始め、村内の小中学校などで盛会に催され観賞に供された。★
★今年の催しは、郷土芸能を始め、高令者の楽焼き展。農産物品評会。★
★女子青年のレース編み・ぬいぐるみ展。盆栽即売会に、けんらん華麗★
★「秋の美」を代表する菊花展と多彩な催しとなりました。　現在の★
★横越村は、明治34年10月30日に、沢海、木津、小杉と合併して、早くも★
★「満71年」。まだ知られない「文化的遺産」が多い事と思われます。★

ふくいくたる香り いろどりも華やかに

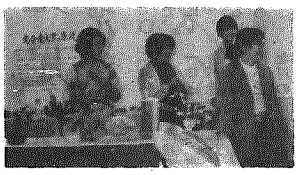
菊は、米をつくるよりむずかしいとある菊づくりの名人がいう。

今年は、例年より出品者は少なかったが、鉢数は多く、作品はすぐれたものばかり、その中で観覧者をうならせたり、感心させたりした石倉八一さんの数立四鉢。直径一・五メートルもある大花輪、花数は八十数個あるという。

民俗伝承の遺産 しし舞い、木津甚句

村内の郷土芸能が、一堂に会して披露されるとあって、会場の公民館講堂は、超満員。なかでも、川根谷内しし舞のこっけいなしぐさは、会場の爆笑をかう。

また、十数年ぶりに今年七月、木津青年会の手によって復活された神楽舞、四方舞、それに木津甚句も披露された。



チャリテー即売 純益を交通遺児に

青年団では、「恵ぐまれない子たちに……」と農産物品評即売会、盆栽即売会など、チャリテー即売会を行った。これがなかなかの好評で、売り上げ金一万余円、そのうち売上純益金七、三五〇円を亀田警察署に寄託した。亀田署では、っそく社会福祉協と相談、亀田、横越の交通遺児一四人に学用品が送られた。

老人大学の楽焼き 女子青年の作品展

なれない手つきで粘土をこね、湯のみや盃灰皿などを形づくり、焼き上げた作品は一見小学生がつくったもののようであるが、手づくりのやわらかさとあたたかさ、そして何んともいえない色彩は、人生の労苦を物語っている。指導にあたった西潟政市氏は、「それぞれ個性がよく表われ、雅趣ある力作ばかり」と賞賛している。

家庭教育 ⑥

叱り方・ほめ方

困る不一致なしつけ方

むかしからよくいうように「叱るのが三分、ほめるのが七分」ということばがあります。多くの親は、子どもを叱るよりも、ほめたほうが何かにつけて効率的であることを身をもって経験しているはずです。

いったい、子どもを叱ったり、ほめたりするのは、何んためのためでしょうか。

叱る、ほめるという言葉には、上のものが下のものに向って、一方的に統制するという意味があります。

たしかに、親が子どもを叱ったりほめたりして自分の意志に従わせようとします。それに対して、子どもは、叱られないように、ほめられるように努めます。

叱られるからしない、ほめられるからするでは困ります。

また、親の目をうかがったり、機げんによって行動するというようなことでは、その叱り方、ほめ方に欠陥があるといえます。

子どもをしつけるには、きびしい方がよいか、やさしい方がよいか、がよく問題になりますが、それよりも、親たちのしつけ方に一貫性のないきは、子どもがたとえ悪いことをしても見過す。その反対に、不機げんなときは、どんな小さなことでも厳しくあつかわれます。

このようでは、子どもは、親の機げんをみて行動するのは当然のように思われます。

そのほかに、他人の前とか兄弟姉妹によって、しつけ方が不一致なことがしばしばあります。親の機げんのよいとき